

愛知学院大学歯学部・歯学研究科
中期計画

歯学部・歯学研究科中期計画 目次

中期目標		中期計画	頁
		前 文	1
1 教育に関する目標	(1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程	1-ア 患者中心の全人的歯科医療を提供する能力や倫理的思考能力と自発的・自律的な課題探求心を備えた歯科医師の育成 ①初年次教育の充実と検証 ②モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえた知識・技術・情意教育の充実と検証 ③ルーブリック評価等を用いた厳格な評価の実施 ④歯学教育情報管理分析室（IR室）等を中心とした教育の成果・効果の検証	3～6
	イ 博士課程	1-イ 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成 ①歯科保健医療・歯科医学研究を通じて社会に貢献する人材の選抜方法の確立 ②大学院教育の検証と適正な運用 ③厳格な評価及び適正な学位授与の実施	
	(2)教育活動の成果・効果の検証	2 教職員の教育力向上 ①FDによる教育能力の向上 ②教育力向上に資する評価システムの開発	7
	(3)意欲ある学生の確保	3 意欲のある優秀な人材の確保 ①アドミッションポリシーの視点に立った入学選抜試験の実施と検証 ②広報活動の実施と検証 ③高大連携の実施と検証	8～9
(4)学生支援の充実	4-ア 学生の学修支援・学生生活支援 ①学習相談・助言・支援の組織的対応 4-イ 歯科医師臨床研修マッチング支援 ①学生が希望する臨床研修先へのマッチング支援体制の充実	10～11	
2 研究に関する目標	(1)特色ある研究の推進	1 地域社会に貢献する研究の展開 ①歯科保健医療における先進的な基礎研究の推進 ②地域性や人的資源を生かした特色ある研究の推進	12
	(2)研究の実施体制等の整備	2 研究の実施体制等の充実 ①分野連携型研究体制の構築 ②外部資金を活用した研究体制の構築	13
	(3)研究成果の公表と発信	3 研究成果の評価と国内外への発信 ①個人業績評価の適正な運用及び成果公表システムの充実 ②分野の特色を評価するシステムの構築 ③HP等を用いた国内外への情報公開	14
3 地域貢献及び国際交流に関する目標	(1)地域社会への貢献	1 公開講座等を通じた地域貢献活動の充実 ①全てのライフステージの住民に対する公開講座を通じての知の還元	15
	(2)国際交流の推進	2 歯学教育連携及び歯科保健医療支援を軸とした国際交流の推進 ①学部・大学院学生の双方向け交流活動の充実 ②東南アジア諸国の歯科保健医療向上支援活動の推進	16
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標	(1)学部・研究科運営の改善	1 教職員連携体制を確立した学部・研究科運営の改善 ①教育研究組織や学内資源配分の見直し及び政策経費・新規事業経費の確保 ②適正な人材の確保・育成・業績評価をもとにした教職連携体制の強化 ③教職員の能力開発のためのSD推進	17～18
	(2)事務等の効率化・合理化	2 教職員の能力開発推進、業務及び事務体制の見直し等による事務の効率化・合理化及び経費の削減 ①業務の見直し、事務体制の見直し等による事務の効率化・合理化	19
	(3)社会的責任・安全管理の徹底	3 学生と教職員の健康、安全なキャンパスの確保及び情報セキュリティ対策を始めとした危機管理体制の確立 ①学生と教職員の健康・安全なキャンパスの確保 ②情報セキュリティ対策を始めとした危機管理体制の充実	20
	(4)附属病院の運営	4 教育機能の充実及び効率的かつ質の高い医療の提供 ①教育病院としての機能の充実 ②講演及び医療の提供を通じた地域貢献	21
5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	(1)自己点検・評価	1 自己点検・評価の学部運営への反映 ①学部・研究科業務改善に自己評価及び第三者評価を反映させる体制の充実	22
	(2)情報公開・広報	2 私立歯科大学の強みを活かしたブランド戦略の展開 ①教育・研究及び国際的歯科保健活動に関する積極的な国内外への情報発信	23

愛知学院大学歯学部は、昭和36年に「行学一体」の建学の精神を歯学教育の分野で実践し、真に国民の福祉向上に貢献できる歯科医師を養成することを目的に戦後最初の私立歯学部として創立され、これまで多くの優秀な歯科医療人を輩出するとともに、歯科医学・医療の発展に大きな役割を果たしてきた。

また、歯学研究科は、昭和43年に設置され大学の教育理念・目標を達成するために、大学院学生に豊かな人間性と高い倫理観を備えることを求め、将来、高度な研究活動又は専門的業務に従事しうる博士を輩出してきた。

近年の歯科保健医療の現場では、医師数の充足は見られるものの、医療技術の高度化・専門化に加え、高齢化の進展に伴う疾病構造の変化、さらには要介護者等に対する口腔ケア、口腔と摂食嚥下の機能維持・向上など、多様化するニーズへの適切な対応が求められている。

これからの歯科医療に携わる者は、医療人としての基本的な知識・技術・態度に加え、口腔の健康と全身の健康との関連性を捉えて、多職種連携や高度歯科医療を実践できる能力を備えなければならない。

少子高齢化がさらに進展し、人口減少社会に突入することが予測される中、愛知学院大学歯学部及び歯学研究科の使命は、知の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することにある。

愛知学院大学歯学部及び歯学研究科は、学部長・研究科長のリーダーシップの下、魅力ある学部・研究科づくりを一層推進し、社会から高く評価される学部・研究科となるために、次の点を基本に中期計画を定め、歯学部教職員が一丸となり、中期目標の達成を目指す。

歯学部

- 1 倫理観を持った人間性豊かな歯科医師の養成
- 2 学際的教養を身につけた歯科医師養成
- 3 歯科医療技術に習熟した歯科医師の養成
- 4 国際貢献と地域歯科医療への協力

歯学研究科

- 1 研究者として高度な専門的学術の倫理と技術及びその応用能力を身につけ、それらをさらに発展させるために必要とされる研究能力の養成
- 2 臨床歯科医として専門分野に関する高度の知識と技術を習得し、それらをさらに発展させるために必要とされる研究能力に加えて、患者を対象とする高度の臨床研究を遂行とうる能力の養成

1 教育

多様なニーズに対応できる歯科医師養成の教育課程を養成し、社会情勢の変化に対応できる歯科医師を養成することが社会から求められており、愛知学院大学歯学部として个性的なアウトカム基盤型教育カリキュラムを構築して、高度な歯科保健医療活動が行える実践的歯科医療人の育成を目指す。

- (1) 優秀な人材を選抜し、歯科医療人としての高い志を育むとともに質の高い教育活動を展開し、豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、口腔の健康を通して人間の命と生活を守るという職責を自覚した歯科医療人を育成する。
- (2) 教職員が教職員協働体制で、オープンキャンパス及び高大連携などを推進し、歯科医療人が社会に貢献する職種であるということをアピールし、歯科保健医療活動を通じて、社会に貢献する優秀な人材を確保する。
- (3) FD活動を通じて、歯科医学教育の変化に対応できる質の高い教育能力を持つ教員の養成に努める。一方、職員に対しては、SD活動を通じて、教育活動において果たす役割について理解を高める。
- (4) 学生の学修支援及びマッチング支援体制のさらなる充実に向けて積極的に活動する。

2 研究

愛知学院大学歯学部及び歯学研究科として社会貢献を重視した歯学研究を推進する。さらに、歯学部及び歯学研究科として、より多くの外部研究資金の獲得を目指し、研究成果を国内外に発信する。

3 社会貢献

歯学について公開講座等を通じた地域貢献活動という視点で社会に提供するとともに、アジア等を主眼においた歯科保健医療活動を通じて国際貢献を進めていく。

4 業務運営

教育研究組織の見直しや附属病院の業務改善を進めるなど、運営体制を改善する。

また、教職員の能力と業績を適正に評価するとともに、専門性を持った大学教職員の育成を行うなど、学部長・研究科長の強いリーダーシップのもと、戦略的、自律的な学部・研究科運営を行う。

5 評価および情報公開

自己点検・評価及び個人業績評価の充実を図り、評価結果を公表するとともに、評価結果をすみやかに歯学部・歯学研究科の運営に反映させる。さらに、愛知県の歯学部及び歯学研究科としてのブランドイメージを関連分野のみならず国内外に発信し、教職員が一丸となって、幅広い広報活動を通して存在感をアピールする。

愛知学院大学歯学部・歯学研究科 中期計画

歯学部		1-(1)-ア
目標	項目	1 教育に関する目標 (1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程
計画	項目	1-ア 患者中心の全人的歯科医療を提供する能力や論理的思考能力と自発的・自立的な課題探求心を備えた歯科医師の育成
	内容	全人的歯科医療人育成を充実させて、豊かな人間性を発揮できる医療人教育を推進する。
	実施事項	①初年次教育の充実と検証 ②モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえた知識・技術・情意教育の充実と検証 ③ルーブリック評価等を用いた厳正な評価の実施 ④歯学教育情報管理分析室(IR 室)等を中心とした教育の成果・効果の検証

実施事項	①初年次教育の充実と検証						
内容	A: 歯学教育情報管理分析室(IR 室)等を通じて新入生の適性を分析し、初年次教育の充実を図る。						
評価指標	指標				達成目標		
	初年次学生の成績				平均 GPA2.5 以上(満点4)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 初年次教育の充実	検討			実施	実施 検証		
担当	A: 基礎系教務主任						

実施事項	②モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえた知識・技術・情意(態度・興味・関心・意欲)教育の充実と検証						
内容	A: 平成28年度改定版「モデル・コア・カリキュラム」に対応した教育プログラムを実施し、教育成果を検証する。 B: 教育内容をディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの視点で再編し、特色ある歯学教育を展開する。						
評価指標	指標				達成目標		
	学生の成績				平均 GPA2.5 以上(満点4)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 教育成果の検証	実施	実施 検証					
B: 特色ある歯学教育の展開	実施	実施 検証					
担当	A: 基礎系教務主任 B: 臨床系教務主任						

実施事項	③ルーブリック評価等を用いた厳正な評価の実施						
内容	A: 明確な評価基準に基づき、厳正な評価を行い、優秀な歯科医療人を育成する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 評価基準の確立 及び歯科医療人の 育成	実施	検証	実施				
担当	A: 教務委員長						

実施事項	④歯学教育情報管理分析室(IR室)等を中心とした教育の成果・効果の検証						
内容	A: 共用試験(CBTおよびOSCE)を活用して成果・効果を検証する。 B: 歯学教育情報管理分析室(IR室)を活用して在学中の成績全般を管理分析し、現役生国家試験合格率及び国家試験合格率を向上する。						
評価 指標	指標				達成目標		
	共用試験(CBT及びOSCE)合格率				100%		
	6年間で卒業した学生の歯科医師国家試験合格率				70%以上		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 共用試験の活用	実施	分析 検証					
B: 在学中の成績を管 理分析	実施	分析 検証					
担当	A: CBT 委員会委員長、OSCE 委員会委員長 B: IR 室室長						

歯学研究科		1-(1)-イ
目標	項目	1 教育に関する目標 (1) 特色ある教育の展開 イ 博士課程
計画	項目	1-イ 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
	内容	全てのライフステージにおいて、国民の健康維持に資する観点からの研究を展開するなかで、歯科保健医療において先駆者として活躍できる人材を育成する。
	実施事項	①歯科保健医療・歯科医学研究を通じて社会に貢献する人材の選抜方法の確立 ②大学院教育の検証と適正な運用 ③厳格な評価及び適正な学位授与の実施

実施事項	①歯科保健医療・歯科医学研究を通じて社会に貢献する人材の選抜方法の確立						
内容	A: アドミッションポリシーの視点に立ち、大学院博士課程の入学試験システムを見直し、目的に適う人材を確保する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 人材の確保	検討	実施		実施 検証			
担当	A: 研究科長、研究科主任						

実施事項	②大学院教育の検証と適正な運用						
内容	A: 大学院教育カリキュラムを検証し、口腔保健医療における先駆者育成に向けて、体系的な教育プログラムを構築する。 B: 自ら課題を解決することができる歯科医療人を育成する。 C: カリキュラムポリシーのもとで、適正な大学院教育を展開する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 教育プログラムの構築	検討	実施	検証				
B: EBM 教育の充実	実施	実施 検証					
C: 適正な大学院教育の展開	実施	実施 検証					
担当	A: 研究科長、研究科主任 B: 研究科長、研究科主任 C: 研究科長、研究科主任						

実施事項	③厳格な評価及び適正な学位授与の実施						
内容	A:開講科目の評価方法を検証し、ディプロマポリシーの観点から見直しを図る。 B:学位授与の基準を検証し、適正な学位(博士)の授与体制を確立する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:評価方法の検証と見直し	検討	実施	検証				
B:学位授与体制の確立	検討	実施		検証			
担当	A:研究科長、研究科主任 B:研究科長、研究科主任						

歯学部・歯学研究科		1-(2)
目標	項目	1 教育に関する目標 (2)教育活動の成果・効果の検証
計画	項目	2 教職員の教育力向上
	内容	これまでの自己評価・学生及び同僚等による評価及び規程を検証し、教員の評価システムを充実させ、より良質な評価組織体制を確立する。
	実施事項	①FD による教育能力向上 ②教育力向上に資する評価システムの開発

実施事項	①FD による教育能力向上						
内容	A:学部および大学院教育への多様な教育方法導入に向けて、FD 活動を充実させるとともに効果を検証する。						
評価指標	指標				達成目標		
	FD の参加率				95%以上		
	FD の内容に係るアンケート調査				平均4点以上(満点5)		
	学生による授業評価				評価4以上(満点5)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:FD 活動の充実	実施	実施 検証					
担当	A:歯学部 FD 委員会委員長、歯学研究科 FD 委員会委員長						

実施事項	②教育力向上に資する評価システムの開発						
内容	A:これまでの個人業績評価及び業績評価に係る規程を検証し、より効果的な教育評価システムの開発や教員へフィードバックなど運用面で改善を図る。						
評価指標	指標				達成目標		
	学生の成績				平均 GPA2.5 以上(満点4)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:教育力の向上及び運用面での改善	検討	実施	実施 検証	実施 検証			
担当	A:歯学部専任教員業績評価(審査)検討委員会委員長						

歯学部・歯学研究科		1-(3)
目標	項目	1 教育に関する目標 (3)意欲ある学生の確保
計画	項目	3 意欲のある優秀な人材の確保
	内容	高大接続改革の根幹である「学力の三要素」を適正に評価し、歯科保健医療活動を通じて、社会に貢献する素養を有する人材を確保する。併せて、他大学から本学へ来る大学院生・研修医や卒業後本学に残る大学院生を確保する。
	実施事項	①アドミッションポリシーの視点に立った入学選抜試験の実施と検証 ②広報活動の実施と検証 ③高大連携の実施と検証

実施事項	①アドミッションポリシーの視点に立った入学選抜試験の実施と検証						
内容	A:アドミッションポリシーに適合した入学試験方法の実施に向けて改善を図る。 B:入学試験のデータと入学後の成績について歯学教育情報管理分析室(IR室)を通じて組織的に分析する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:入学試験方法の改善	実施	実施 検証					
B:成績の組織的分析	実施	実施 検証					
担当	A:臨床系教務主任、歯学研究科主任 B:IR室室長						

実施事項	②広報活動の実施と検証						
内容	A:高等学校や歯学部同窓会等との連携強化を推進し、ホームページや広報誌を通じ、広報活動を展開する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:実質的な活動の展開	実施	実施 検証					
担当	A:大学広報委員会委員						

実施事項	③高大連携の実施と検証						
内容	A:質の高い模擬講義を企画運営し高校との連携を深める。						
評価 指標	指標				達成目標		
	模擬講義の実施回数				5回(年間)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 模擬講義に伴う高校との連携及び啓発活動の展開	実施	実施 検証					
担当	A: 歯学部高大連携委員会委員長						

歯学部・歯学研究科		1-(4)-ア
目標	項目	1 教育に関する目標 (4) 学生支援の充実 ア 学修支援・学生生活支援
計画	項目	4-ア 学生の学修および生活支援
	内容	歯学部・歯学研究科の教職員が一体となって、学生の視点に立ち、より質の高い学生支援体制を構築する。
	実施事項	①学習相談・助言・支援の組織的対応

実施事項	①学習相談・助言・支援の組織的対応						
内容	A: 支援体制の拡充を図るとともに、学生相談業務内容を充実し、教職協働体制を取り、きめ細やかな学生支援を実施する。 B: 保護者相談会を通して保護者との連携を図るとともに、成績不振学生への修学指導体制を見直す。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A 学生支援の実施	実施	実施 検証					
B 修学指導の実施	実施	実施 検証					
担当	A: 学生委員会委員長 B: 学生委員会委員長						

歯学部		1-(4)-イ
目標	項目	1 教育に関する目標 (4) 学生支援の充実 イ 歯科医師臨床研修マッチング支援
計画	項目	4-イ 学生の希望する臨床研修先へのマッチング支援
	内容	歯科医師臨床研修マッチングの実績を検証し、学生の希望する歯科医師臨床研修マッチングの支援体制の構築を目指す。
	実施事項	① 学生が希望する臨床研修先へのマッチング支援体制の充実

実施事項	① 学生が希望する臨床研修先へのマッチング支援体制の充実						
内容	A: 学生のニーズを把握し、希望する研修先の情報の提供を行う。 B: キャリアセンターとの連携を深め、マッチングの面接支援を行う。						
評価指標	指標				達成目標		
	歯科医師臨床研修マッチング率				100%		
	訪問先の大学・病院・施設でのアンケート調査				良好評価 60%以上		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 学生ニーズの把握及び希望研修先の情報提供	実施	実施 検証					
B: マッチング面接支援の実施	実施	実施 検証					
担当	A: 6年生学年主任、歯科臨床研修センター長 B: 臨床系教務主任						

歯学部・歯学研究科		2-(1)
目標	項目	2 研究に関する目標 (1) 特色ある研究の推進
計画	項目	1 地域社会に貢献する研究の展開
	内容	口腔研究における大学として先進的な基礎研究を展開していくとともに、地方創生など、新たな歯科保健医療活動に資する幅広い応用研究を推進する。
	実施事項	① 歯科保健医療における先進的な基礎研究の推進 ② 地域性や人的資源を活かした特色ある研究の推進

実施事項	① 歯科保健医療における先進的な基礎研究の推進						
内容	A: 大学の理念及び教育研究目標と合致した研究に加え、歯科医療の発展に寄与する研究を推進する。 B: 新たな診断・治療・予防方法の開発等に向けた基礎研究を展開する。						
評価指標	指標				達成目標		
	論文数(査読有りまたは学術書掲載)				英文誌 75 編以上(年間) 和雑誌 50 編以上(年間)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 歯科医療の発展に寄与する研究を推進	実施	実施 検証					
B: 基礎研究の展開	実施	実施 検証					
担当	A: 基礎系教務主任、研究科主任 B: 基礎系教務主任、研究科主任						

実施事項	② 地域性や人的資源を活かした特色ある研究の推進						
内容	A: 歯科医師会や企業との連携のもと地域性や人的資源を活かした特色ある研究を推進する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 特色ある研究の推進	実施	実施 検証					
担当	A: 臨床系教務主任、未来口腔医療研究センター所長						

歯学部・歯学研究科		2-(2)
目標	項目	2 研究に関する目標 (2)研究の実施体制等の整備
計画	項目	2 研究の実施体制等の充実
	内容	特色ある研究を推進していくために、教員の適正配置に努めるとともに、学外から優秀な教員を確保する。歯・薬・心身科学連携などの先駆的な研究プロジェクトをより推進するために、科学研究費等外部研究資金の確保に努める。併せて、寄附講座等を設置して、社会のニーズに応える研究体制を構築する。
	実施事項	①分野連携型研究体制の構築 ②外部資金を活用した研究体制の構築

実施事項	①分野連携型研究体制の構築						
内容	A: 分野を超えた研究体制のもとで外部大型研究資金を獲得する。						
評価指標	指標			達成目標			
	政府省庁等が設定する大型プロジェクトの獲得			1 件(第 1 期中期計画期間中)			
	科学研究費、受託研究・共同研究、奨学寄附金、研究助成金の件数			科学研究費獲得 60 件(年間) 科学研究費応募全教員(年間) 受託研究・共同研究、奨学寄附金、研究助成金受入 120 件(第 1 期中期計画期間中)			
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 大型資金の獲得及び外部資金の獲得	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 歯学部長、研究科長						

実施事項	②外部資金を活用した研究体制の構築						
内容	A: 産学官連携及び寄附講座設置等を通じて、社会のニーズに応える研究を展開する。						
評価指標	指標			達成目標			
	産学官連携件数			1 件(第 1 期中期計画期間中)			
	寄附講座の設置			1件(第 1 期中期計画期間中)			
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 産学官との連携及び寄附講座の設置	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 歯学部長、研究科長						

歯学部・歯学研究科		2-(3)
目標	項目	2 研究に関する目標 (3) 研究成果の公表と発信
計画	項目	3 研究成果の評価と国内外への発信
	内容	歯学研究活動を充実させるために、研究成果をより適正に評価する体制を構築するとともに、国内外に成果を発信するシステムを強化する。
	実施事項	①個人業績評価の適正な運用及び成果公表システムの充実 ②分野の特色を評価するシステムの構築 ③HP 等を用いた情報公開

実施事項	①個人業績評価の適正な運用及び成果公表システムの充実						
内容	A: 個人業績評価作成時に提出を求めている付属書の分析方法の開発及び活用						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 分析方法の開発及び活用	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 歯学部専任教員業績評価(審査)検討委員会委員長						

実施事項	②分野の特色を評価するシステムの構築						
内容	A: 個人業績評価のデータを分野の研究成果に活用できるシステムの開発及び活用						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: システムの開発及び活用	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 歯学部専任教員業績評価(審査)検討委員会委員長						

実施事項	③HP 等を用いた情報公開						
内容	A: HP(歯学部・研究支援課)にて公開済み特許出願や研究シーズ集を紹介し、共同研究や受託研究を積極的に受け入れられるよう内容を充実させる						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: HP の整備	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 大学広報委員会委員						

歯学部		3-(1)
目標	項目	3 地域貢献及び国際交流に関する目標 (1) 地域社会への貢献
計画	項目	1 公開講座等を通じた地域貢献活動の充実
	内容	学内外の講師を招き、公開講座等を通して地域の生涯学習を推進する。
	実施事項	①全てのライフステージの住民に対する公開講座を通しての知の還元

実施事項	①全てのライフステージの住民に対する公開講座を通しての知の還元						
内容	A. 学内外の講師を招き、公開講座等を通して地域の生涯学習を推進する。						
評価指標	指標				達成目標		
	歯科保健医療等に関する講座の開催				12件(年間)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 講座の開催	実施	実施 検証					
担当	A: 大学公開講座委員会委員						

歯学部・歯学研究科		3-(2)
目標	項目	3 地域貢献及び国際交流に関する目標 (2)国際交流の推進
計画	項目	2 歯学教育連携及び歯科保健医療支援を軸とした国際交流の推進
	内容	海外連携校と締結した協定に基づき推進してきた双方向型の学生交流活動をより充実させ、東南アジア諸国に対して、大学が有する資源を活用して、さまざまな支援活動を行う。
	実施事項	①学部・大学院学生の双方向型交流活動の充実 ②東南アジア諸国の歯科保健医療向上支援活動の推進

実施事項	①学部・大学院学生の双方向型交流活動の充実						
内容	A:今後より多くの大学との交流を推進する。						
評価指標	指標				達成目標		
	受入留学生数				6人(第1期中間計画中)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:海外の大学との交流推進	実施	実施 検証					
担当	A:学術交流(国内・国外)委員会委員長						

実施事項	②東南アジア諸国の歯科保健医療向上支援の推進、						
内容	A:ミャンマー、タイ、モンゴル及びベトナムから歯科医師を受け入れ、歯科疾患予防の観点に立った歯科医師育成支援を行う。あわせて、東南アジア諸国の農村部で立ち遅れている歯科医療を支援するために歯科医療チームを編成して予防・治療活動を行う。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:歯科医療育成の支援	実施	実施 検証					
B:東南アジア諸国への歯科医療支援	実施	実施 検証					
担当	A:学術交流(国内・国外)委員会委員長 B:学術交流(国内・国外)委員会委員長						

歯学部・歯学研究科		4-(1)
目標	項目	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (1) 学部・歯学研究科運営の改善
計画	項目	1 教職員連携体制を確立した学部・歯学研究科運営の改善
	内容	学部長・研究科長のリーダーシップのもと、適格な情報分析を行い、自主性・自律性を生かした活力ある学部・研究科運営を行う。また、女性の登用を始めとして、多様な人材を確保・育成し、教職員の能力と業績を適正に評価するとともに、SDの充実によりプロパー職員の能力向上を図る等、教職員の資質及び意欲の向上を図り、教職連携を強化することにより学部・研究科運営の活性化を図っていく。
	実施事項	①教育研究組織や学内資源配分の見直し及び政策経費・新規事業経費の確保 ②適正な人材の確保・育成・業績評価をもとにした教職連携体制の強化 ③教職員の能力開発のためのSD推進

実施事項	①教育研究組織や学内資源配分の見直し及び政策経費・新規事業経費の確保						
内容	A: 歯学教育情報管理分析室(IR 室)等を活用するなど、研究を補助する事務体制の整備を進める。 B: 戦略的な学部・研究科運営を進めるための政策経費、新規事業経費を確保する。						
評価指標	指標				達成目標		
	初年次学生の成績				平均 GPA2.5 以上(満点4)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: IR室の活用	実施	実施 検証					
B: 政策経費、新規事業経費の確保	検討	実施	実施 検証				
担当	A: IR 室室長 B: 歯学部長、歯学研究科長						

実施事項	②適正な人材の確保・育成・業績評価をもとにした教職連携体制の強化						
内容	A: 戦略的・自律的大学運営をさらに進めるためにジェンダーフリーの考え方のもとで、専門性を有する人材を確保・育成する。 B: 適正な教職員の能力評価を行った上で教職協働の視点に立った組織の見直しを進める。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 人材の確保	検討	実施	実施 検証				
B: 組織の見直し	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 歯学部長、歯学研究科長、歯学部事務室事務長 B: 歯学部長、歯学研究科長、歯学部事務室事務長						

実施事項	③教職員の能力開発のためのSD推進						
内容	A: 教職員の能力開発のため、事務能力向上、社会常識向上につながるSD、医療系SD実施を推進する。						
評価 指標	指標				達成目標		
	事務能力向上、社会常識向上につながるSD実施				1回実施(年間)		
	医療系SD実施				2回実施(年間)		
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: SDの実施	実施	実施 検証					
担当	A: 歯学部 FD 委員会委員長、歯学研究科 FD 委員会委員長、歯学部事務室事務長						

歯学部・歯学研究科		4-(2)
目標	項目	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (2) 事務等の効率化・合理化及び経費の削減
計画	項目	2 教職員の能力開発推進、業務及び事務体制の見直し等による事務の効率化・合理化及び経費の削減
	内容	業務及び事務体制を見直し、事務等の効率化・合理化を進め、併せて経費の削減にも努める。
	実施事項	①業務の見直し、事務体制の見直し等による事務の効率化・合理化

実施事項	①業務の見直し、事務体制の見直し等による事務の効率化・合理化						
内容	A:業務のアウトソーシング化の推進、発注・検収業務のシステム改善を通じて、事務の効率化・合理化を推進し、併せて経費の削減にも努める。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:事務の効率化・合理化及び経費の削減	検討	実施	実施 検証				
担当	A: 歯学部事務室事務長						

歯学部・歯学研究科		4-(3)
目標	項目	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (3) 社会的責任・安全管理の徹底
計画	項目	3 学生と教職員の健康、安全なキャンパスの確保及び情報セキュリティ対策を始めとした危機管理体制の確立
	内容	学生及び教職員の健康に配慮し、キャンパス内の安全管理を推進するとともに、情報セキュリティ管理を始めとした危機管理体制を充実させる。
	実施事項	①学生と教職員の健康・安全なキャンパスの確保 ②情報セキュリティ対策を始めとした危機管理体制の充実

実施事項	①学生と教職員の健康・安全なキャンパスの確保						
内容	A:学生と教職員の健康・安全なキャンパスの構築						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:健康・安全なキャンパスの構築	検討	実施	実施 検証				
担当	A:学生委員会委員長、歯学部事務室事務長						

実施事項	②情報セキュリティ対策を始めとした危機管理体制の充実						
内容	A:情報管理など危機管理体制を見直し充実させる。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:危機管理体制の見直し充実	検討	実施	実施 検証				
担当	A:末盛・楠元ネットワーク委員会委員長、歯学部事務室事務長						

歯学部		4-(4)
目標	項目	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (4)附属病院の運営
計画	項目	4 教育機能の充実及び効率的かつ質の高い医療の提供
	内容	附属病院について、教育機能の充実と医療サービスの向上に努めるとともに、診療科の再編成等の経営の効率化を推進し、赤字体質の改善を図る。
	実施事項	①教育病院としての機能の充実 ②講演及び医療の提供を通じた地域貢献

実施事項	①教育病院としての機能の充実						
内容	A:「安心・安全」で患者に寄り添ったきめ細やかな医療の提供および、歯科臨床研修センターを新設し、臨床研修医等の「医療人」を育成する場として適切な環境の整備を進める。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:電子カルテシステムの活用	実施	実施 検証					
担当	A:病院長、病院事務室事務長						

実施事項	②講演及び医療の提供を通じた地域貢献						
内容	A:一般の方を対象とした各種講演会の開催 B:要介護高齢者の在宅歯科医療に対応するため、研修歯科医による特別養護老人ホーム等での臨地実習の充実を図る						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:診療科の再編	実施	検証					
B:多職種連携が行える体制の構築	検討	実施	実施 検証				
担当	A:病院長、病院事務室事務長、病院広報委員会委員長 B:歯科臨床研修センター長						

歯学部・歯学研究科		5-(1)
目標	項目	5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 (1)自己点検・評価
計画	項目	1 自己点検・評価の学部運営への反映
	内容	大学機関別認証評価による大学評価等を通じて、適切な学部・研究科業務運営改革を推進する。併せて、現在全国歯科大学・歯学部長会議主導で検討されている歯学部の大学分野別認証評価にも積極的に対応する。
	実施事項	①学部・研究科業務改善に自己評価及び第三者評価を反映させる体制の充実

実施事項	①学部・研究科業務改善に自己評価及び第三者評価を反映させる体制の充実						
内容	A: 自己評価及び第三者評価結果を教職員に周知し、速やかな改善を図り、強みを活かし弱点を克服する体制を構築する。 B: 自己点検評価委員会を毎年開催し、学外有識者から幅広く意見を聞く等して常にPDCA サイクルを意識し、業務改善に向けて積極的な取り組みを行う。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A: 評価結果の周知と体制の構築	実施	実施 検証					
B: 業務改善への取り組み	検討	実施 検証					
担当	A: 歯学部自己点検・評価委員会委員長、歯学研究科自己点検・評価委員会委員長 B: 歯学部自己点検・評価委員会委員長、歯学研究科自己点検・評価委員会委員長						

歯学部・歯学研究科		5-(2)
目標	項目	5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 (2)情報公開・広報
計画	項目	2 私立歯科大学の強みを活かしたブランド戦略の展開
	内容	地域に根差し、情報公開及び広報活動を幅広く展開する。
	実施事項	①教育・研究及び国際的歯科保健活動に関する積極的な国内外への情報発信

実施事項	①教育・研究及び国際的歯科保健活動に関する積極的な国内外への情報発信						
内容	A:大学の3つの基本方針(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を発信する。 B:教育・研究・臨床活動の国際展開を広く学外に発信する。 C:HPはもとより、さまざまな媒体及び同窓会等を活用した広報活動を推進する。						
工程表	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	備考
A:3つのポリシーの配信	実施	実施 検証					
B:アウトカム基盤型教育の発信及び国際展開の発信	実施	実施 検証					
C:広報活動の推進	実施	実施 検証					
担当	A:基礎系教務主任、臨床系教務主任、研究科主任 B:基礎系教務主任、臨床系教務主任、研究科主任 C:基礎系教務主任、臨床系教務主任、研究科主任						